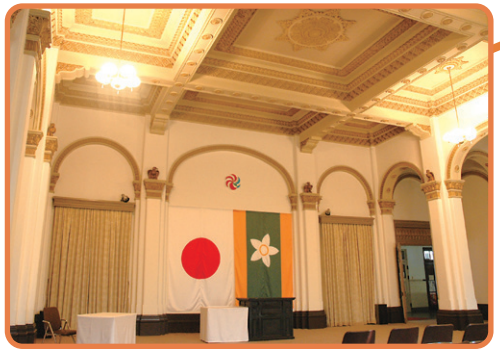
7 愛媛県庁本館

愛媛県庁本館は、知事が仕事をしている庁舎としては、全国で3番目に古い建物で、昭和4年に完成しました。

ドームを中心に左右対称で建てられており、空から見ると、鳥が翼を広げたような形になっています。

内部には、知事が仕事をする「知事室」をはじめ、天皇陛下など県の特別なお客様をお迎えする「貴賓室」、表彰などの式典を行う「正庁」などがあり、シャンデリアやステンドグラスなどの装飾が施されているほか、建設当時としては珍しいエレベーターや当時のままの電話ボックスなど見所がたくさんあります。

また、正面玄関を入ったところにあるロビーの床は、白と黒の大理石でできていて、よく見ると巻貝の化石がいくつも隠れています。



◆正庁（4階）

「正庁」とは、「正面の大広間」という意味で、現在で言えば講堂です。式典を行う部屋であり、柱の上には彫刻と鷲が取りつけられています。

◆貴賓室（3階）

2つある大理石でできた暖炉は、建設当時から電気式の暖房でした。（現在は使用されていません。）

◆電話ボックス（2階）

建設当時の様子を伝えています。

（中にはレトロな電話も設置しています。）

◆県庁本館のプロフィール

- ○建設開始：昭和2年11月11日
- ○完成：昭和4年2月9日
- ○愛媛県が誕生してから4代目の庁舎
- ○鉄筋コンクリート造　4階建て
- ○広さ（建築面積）：2,030㎡
- ○高さ：32.6m
- ○幅（東西の長さ）：約80m
- ○奥行（南北の長さ）：約43m
- ○建築にかかった金額：102万円
  ※今のお金に換算すると100～120億円
- ○設計者の「木子七郎」は、萬翠荘（旧松山藩主・久松定謨伯爵別邸）や石崎汽船本社（松山市三津）も設計
- ○国登録有形文化財に登録（令和3年2月26日）